体験記

総合大学生の職業訓練体験

職業能力開発総合大学校　指導学科　**新井　吾朗**

職業能力開発総合大学校の学生達は，職業訓練を授業のなかだけで学んでいるわけではありません。職業能力開発施設の見学会や授業での部外講師，研究活動，教員との交流のなかにある，能力開発施設や施設の先生方に接する機会から，多くのことを学んでいます。物事を純粋な目で見る学生時代のこうした体験が，職業訓練の使命や抱えている問題に対する意識を主体化する重要な機会だろうと考えています。

今回は，「訓練校の様子をもっと知りたい」と考えた学生が，実際に施設で訓練を受けた経験をご紹介します。

5月のある日，部外講師として登壇された川崎高等職業技術校（以下，川崎校）の松谷先生のお話を聞く機会がありました。私は，川崎に住んでいたにもかかわらず，川崎校のことを知りませんでした。川崎市に職業訓練校があったことも知りませんでした。その時，自分は能開総合大に通って3年目になるのに，訓練校のことを何も知らないことに気づきました。確かに，学校の行事で2年生の時，訓練校の見学会がありました。その時は施設や訓練の様子を見学し，指導員の先生が仕事の内容などを説明してくださいました。しかし，どうしても訓練校の生の姿を実感できませんでした。

私は，松谷先生の講義が終わった後，先生に話しかけました。先生は話のなかで，「定員オーバーでない訓練があれば，訓練を受けてもかまわない。」と言ってくださいました。私は，訓練校を知る良い機会だと思い，夏休みを利用して訓練を受けさせていただくことにしました。私が受けた訓練は，電子機器制御コースの「データベース応用」でした。期間は2日間で，主にSQLというデータベースを操作するプログラム言語の基本操作を学びました。

初日，私はとても緊張していました。でも，校舎に入ると訓練生の皆さんのほうから，「おはようございます」と，快いあいさつをしていただいたので，私の緊張はほぐれていきました。

訓練は2日間とも，午前中に講義，午後に実習が行われました。講義では，訓練生の皆さんがわからないことを積極的に質問している姿が印象的でした。

その姿勢は実習の時も同じで，先生も訓練生の質問に答えるのに忙しそうでした。実は私は，SQLについて，能開総合大の実習を受けている最中だったのですが，川崎校での訓練は，基本操作とはいえ，なかなか手ごたえのある訓練だと思いました。

指導員の先生と，お話しする機会もありました。指導員の仕事は，訓練やその準備が主な仕事であると思っていましたが，書類作成や訓練生の生活指導といったことも大きな割合を占めていることを知りました。仕事内容は，2年生の見学会の時に聞いてはいましたが，直接お話を聞いて，大変さが伝わってきました。指導員になるには相当な覚悟が必要なようです。

訓練を受ける前と受けた後で，訓練校のイメージが大きく変わったわけではありません。しかし，今まで能開総合大の講義等で聞いただけでは感じることのできなかった雰囲気を実感できたように思います。見学するだけでなく，訓練生の一員として授業を受けることができたのがよかったのだと思います。

私は来年の実務実習で，指導員を経験します。今回体験した訓練生の視点を生かして，実習に取り組みたいと思います。

このような機会を与えてくださった，川崎高等職業技術校の松谷先生，電子機器制御コースの先生方に感謝いたします。

職業能力開発総合大学校
情報工学科3年　松崎　加奈子